

令和6年度 杉原谷小学校 学校評価シート

学校教育目標

本年度の重点目標

いのちと人権を大切にし ころ豊かにたくましくのびる ふるさと大好き 杉小っ子の育成 ～自分・友だち・学校・ふるさと、みんな大好き杉原谷小学校～		5点 満点	1 いのちの大切さと人権尊重の精神を基盤にした、学校経営の推進 2 当たり前に取り組み丁寧にやりきる学びの継続と「対話的な学び」に主眼を置いた、深い学び・生活に生きる学びにつながる授業の創造 3 人・もの・こととのふれあいを通じ、ふるさとを誇りに思う心や将来の夢を育む「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進 4 学校と家庭・地域が一体となって子どもを育む、安全で安心な学校づくり	

学校自己評価（達成状況）【 A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】										学校関係者評価
観点	項目		取組（上段）と達成（下段）の状況	児童 評価	保者 評価	教師 評価	評価	総合 評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策 の適正さの評価
豊かな心の育成	「心の健康教育」の推進	1 養	担任の先生と連携し、学期に一度の心の健康教育の実施、1学期と2学期にストレスチェックの実施			5.0	A	A	・評価アンケートの分析をし、職員への共通理解を図る。・保護者啓発の機会を設ける(授業参観・ほけんだより等)。	【適正さの評価 A】 良く取り組んでいるからこそ挨拶もできている。 地域のの人に、元気のよいあいさつがさらにできるとよい。
	「あったかあいさつ運動」の推進	2 特	担任・SCと連携して、ストマネ・ストレスチェックを実施できた。	4.5	3.8	5.0	A		・学んだことを日常で活かせるよう、日々の中で声かけをする。	
	人権教育の充実	3 人	あいさつ運動の実施、生活指導と連携したあいさつ活性化の取り組み（あいさつ名人）						・取り組みがマンネリ化しないよう、学期途中にあいさつのポイントを伝えたりあいさつ名人認定の取り組みを行ったりする。	
	道徳教育の充実	4 道	あいさつ運動やあいさつ名人認定の取り組みを通して、「あったかあいさつ運動」を推進することができた。			5.0	A		・ほかほか週間要のテーマに合った本を全児童の目につく職員室前や下駄箱前に置く。	
			毎月相手や自分のことを考えたり振り返ったりすることができていた。人権集会は各学年の取組を知る良い機会となった。	4.6	4.0				・ほかほかカードの内容を児童同士で交流する機会をつくる。・朝会だけでなく一斉下校時にも児童会からほかほかカードの発表をする。	
確かな学力の育成	学びの土台作り	5 研	教科書及びノートや副読本（心シリーズ等）の活用、週1時間授業の確保			4.9	A	A	・新教科書になったため、カリキュラムの編成を行う必要がある。・道徳の研究授業を検討する。	
	深い学びにつながる授業づくり	6 研	年間指導計画の見直しをしながら、教科書及びワークシートや副読本を活用し、週1時間を確保した。							
	課題克服に向けた朝学の充実	7 研	当り前に学び、最後までやりぬく姿勢の涵養	4.5		4.9	A		・「当り前に取り組み、最後までやりぬく姿勢」という学びの姿勢、学習規律の徹底を今後も継続して鍛えていく。	【適正さの評価 A】 学校ではよく取組をされている。ゲームやYoutubeの時間が長い。大人も本を読まない時代である。
	家庭学習習慣の確立	8 研	「杉小授業モデル2024」の共通理解と実践	4.0	4.4	4.8	A		・これまでの積み上げがあり、最後までやり抜く姿が多く見られる。今後も全職員で意思統一し、組織的に取り組んでいく。	各学校で、一緒に本を読むなど、保護者の努力も必要である。長い目で見守ることが大切。
	読書活動の充実	9 研	4月の研修で授業モデルの共通理解を図り、全学年で取組を進めることができた。						・授業づくりのポイントを意識し、対話やめあてからの振り返りがきちんとできた。見通しをもたせた授業づくりを今後も行っていく。	
健やかな体の育成	体力づくりに向けた取組	10 体	読解力向上に向けた、速読読トレーニングの実施、点検			5.0	A	B	・来年度も、年度初めに教師のベクトルあわせの研修を行い、読解力トレーニングの質を向上させていく。学年間の交流も行う。	
	芝生の特性を活かした授業づくり	11 体	週に2回読解力トレーニングを行った。4月に研修をして、教師のベクトルあわせができた。	4.5	3.4	5.0	A		・効果的に取り組みやすい資料がいつでも使えるように、確認したりストックしたりしておく。	
	健康情報センターとしての役割	12 養	チャレンジ家庭学習強化週間（学期に2回）の実施						・学期に2回、年間6回のチャレンジ家庭学習を継続して実施し、「学習時間・ていねい・見直し」の達成状況で100%を目指す。	
	自己改善に繋がる食育の推進	13 食	2学期までの達成状況は、学習時間97%、ていねい98%、見直し98%である。	4.5	3.4	5.0	A		・自主学習の内容の幅が広がっている。ノート展覧会やクラスでの交流を通して、さらに学年に応じた効果的な取組を目指していく。	
		14 生	図書室の活用・職員の読み聞かせ・図書ボランティアさんのお話し会・団体図書貸し出し・図書室環境整備	3.6	2.2	5.0	A		・教師、児童の読み聞かせ、ボランティアさんの活動などを通して1年間取り組んできたことを今後も進める。	
生活指導の充実	いじめの未然防止と早期発見・早期対応	15 生	計画通り、実施できた。					A	・多可町図書館の貸し出し、学級文庫、図書時間の活用等を通して、さらに充実させる。	【適正さの評価 B】 子どもたちは体力アップサポーターのことを楽しみにしているようである。良く取り組んでおられる。泳力など体力向上に向けて取り組んでいただきたい。
	不登校の未然防止と対応	16 生	体育ノートの活用と体育の時間の杉小サーキットの実施	4.1	4.1	4.5	B		・今後も体育ノートの活用を啓発する。	【適性さの評価 A】 多くの目で見守ってもらえており、けんかがあっても、話し合わせながら上手に仲裁してもらっている。
	生活のめあての充実	17 生	体育ノートを活用して体力づくりに取り組むことができた。						・体力アップサポーター派遣事業をこれからも活用し、専門性の高い指導の機会を確保する。	
		18 養	体力アップサポーターの招聘、体力テストの結果を受けた授業改善の取り組み			4.3	B		・体力テストの結果を分析し、来年度への指導に活かす。教職員で共通理解を図る。	
		19 食	《今》必要な健康情報を発信する 委員会児童と一緒に、興味を持てる掲示を作成する		4.4	5.0	A		・保健給食委員会が主体的に活動(発表・呼びかけ・掲示)できた。引き続き児童同士の横のつながりから、健康意識が高まるよう工夫していく。	
ふるさとを愛し、夢を抱く児童の育成	杉原紙学習の推進	20 食	委員会活動・ほけんだより・掲示板を通して、必要な情報を発信し、児童の健康意識が高まった。			4.9	B	A	・「立ち止まって見なくなる掲示物」「読みたくなるほけんだより」についても引き続き作成していく。	【適正さの評価 A】 紙漉きに関して、保護者も参加して良い経験になった。また、地域の方にもっと参加を募ってお手伝いしてもらって良い。
	総合的な学習の時間の充実	21 総	「食に関する指導計画」に基づき、外部講師や機関と連携した系統だった指導の実施						・給食センターと連携し、体験活動(皮むき体験等)の取組を増やしていく。	
	ふるさとカリキュラムの有効活用	22 総	給食センター栄養教諭にお世話になり、食に興味を持てる指導が実施できた。						・校務支援ソフトの生徒指導台帳を定期的に確認するように職員に声をかける。	
	キャリア教育の推進	23 総	学校生活相談シートやストレスチェックによる実態把握。校務支援ソフトによる情報共有。	4.8	4.3	4.8	B		・今後も、養護教諭、SCの先生方と連携しながらストレスチェックを点検したり児童をサポートしたりする。	
		24 総	定期的な実態把握と校務支援ソフトを用いて効率的に情報共有ができた。						・全職員が全児童に関わることを、教員同士がスムーズにコミュニケーションが取れることを大切にしていく。	
防災・安全教育の充実	適切な防災・安全指導	25 防	校内で先生と子どものあいさつが活性化するなど、言葉をかける機会が増えた。			5.0	A	A	・校務支援センター、行政、医療センターやスタッフの先生方、心理士など、専門機関や先生方との交流を大切にする。	【適正さの評価 A】 予告なしの避難訓練で考えさせるのはとても良い。
	PTA・地域人材との連携	26 防	年間重点目標の設定と啓発活動（児童会、委員会、高学年）年間目標を重点的に意識するあいさつ強化週間の設定			5.0	A		・定期的に生活指導委員会、代表委員会を開催し、教員が思う課題や児童自身の実態などを鑑み、適切で効果的なめあてを設定する。	
	個別の支援・指導計画の適切な実施	27 支	重点目標を意識するために、それぞれの学年で取り組みを考えることができた。あいさつ名人認定によりあいさつが活性化した。						・年間目標ではあるが、形骸化しないよう、折に触れてめあてに取り上げ意識する。	
	インクルーシブ教育の推進	28 支	杉原紙制作のための工程や歴史についての体験学習および展示物の作成			4.9	A		・担任だけでなく、多くの先生方が関わって今の活動ができている。今後も担任だけでなく杉小職員みんなでも取り組む意識をもつ。	
		29 支	全職員で杉原紙の学習に取り組めた。	4.5	4.2	5.0	A		・ピーター・たたき機は、年度初めに誰がどの時間行けるのか担当を決める必要がある。	
情報教育の充実	Chromebookの有効活用	30 総	環境教育・福祉教育など地域に根ざした教育の実施					C	・4年生は福祉体験を中心に学習することが、毎年伝統となっているので、この伝統を今後も受け継いでいきたい。	【適正さの評価 B】 プログラミングの機会を増やしてほしい。保護者、児童を対象としたSNS講習会は効果的であった。
	情報モラルの育成	31 総	多可町社会福祉協議会の方と連携して福祉教育へ取り組んだ。梅花藻やホタルの学習は簡略化して取り組んだ。			5.0	A		・各学年のテーマと年間の見直し、更には次学年へのつながりを意識した取組を継続する。現状に合わせてカリキュラムの見直しも行う。	
	プログラミング教育の推進	32 総	全校生と保護者を対象にしたふるさと校定の実施			5.0	A		・ふるさと校定は、自分たちの住んでいる地域の歴史や自然等について知るよい機会になっている。今後も継続して取り組んでいく。	
		33 総	98%の児童がふるさと校定を受けた。全家庭数に配布、約7割の家庭で実施・回収し、検定証を配布した。						・多可町ふるさと教育カリキュラムをもとに、学年に応じたふるさと教育を推進していく。	
		34 総	キャリア教育全体計画に沿った取組とキャリアパスポートの活用	4.6		5.0	B		・各行事の前後、学期始め・終わり等、機会を捉えて児童自身のめあてやふり返りをすると共に、新たな課題を発見し自己実現のための意欲を持つことができるようにする。・児童の自己有用感を高めることを意識した教育活動を推進する。	
信頼される学校づくり	保護者・地域の要望への対応	35 管	全体計画に沿った取り組みを実施し、年間3回のキャリアパスポート記入の時間を有効に使うことができた。	4.9	4.2	5.0	A	B	・今後も、児童が主体的に考えて行動する訓練や教師の動きを確認する訓練を繰り返し実施し、災害に備える。	【適正さの評価 A】 良い感じの協力体制で取り組めている。学校のニーズを出していくことでもっと取り組める。
	積極的な公開、情報提供	36 管	校内安全点検・登下校指導・避難訓練の定期的な実施						・見守り隊については高齢化が進み、若返りが課題である。	
	コミュニティ・スクールの設置	37 防	定期的な登下校指導を実施した。児童・教職員が主体的に考えて取り組める訓練を計画・実施した。			4.9	B		・ボランティアはお助け隊を募る予定であるが、保護者以外の人を募る場合に連絡方法が課題である。	
		38 管	PTA活動の推進と見守りボランティアの組織拡充・連携						・保護者や関係機関と連携して適切なアセスメントをし、課題や必要とする合理的配慮を明確にした指導計画をもとに支援する。	
		39 支	PTA組織の改編。見守りボランティアは少し更新。見守り活動は継続実施できている。						・来年度も多面的に児童理解をすると共に、複数の教員が連携して個別の支援計画・指導計画の立案・実施・見直しをする。	